

MIS007-12

会場: 304

時間: 5月24日16:45-17:00

地球深部探査センター地球深部探査センターが「ちきゅう」を用いて提供する孔内検層サービスについて

Well Logging service operated by CDEX

木戸 ゆかり^{1*}, 真田 佳典¹, Kyaw Thu MOE¹, 川村 善久², 松田 繁美¹, 倉本 真一¹, 東 垣¹

Yukari Kido^{1*}, Yoshinori Sanada¹, MOE Kyaw Thu¹, Yoshihisa Kawamura²,
Shigemi Matsuda¹, Shin'ichi Kuramoto¹, Wataru Azuma¹

¹海洋研究開発機構地球深部探査センター, ²一般社団法人IODP_MI

¹CDEX, JAMSTEC, ²IODP_MI

地球深部探査センター (CDEX) では、地球深部探査船「ちきゅう」による南海地震発生帯掘削ステージ1を2007年9月に開始した。最初の航海では、6カ所の掘削サイトにおいて掘削同時検層 (LWD) データを取得し、孔内検層 (ロギング) の観点からサイトの科学的特性を探った。その後、同サイトにて柱状試料コアも取得し、ステージ1を終了した。2009年5月からのステージ2では、史上初のライザー掘削が行われ、カッティングスや泥水検層、ワイヤライン検層も加え、事前調査データの提供とロギング計画の策定、航海前の準備、乗船研究者向けのソフトウェアのトレーニング、乗船中のHW/SWを含めたロギングデータ提供のサービス、航海後のデータ処理、データ公開などを行ってきた。モラトリウム期間の乗船研究者向けのデータ公開 (一部、モラトリウム明けの一般へのデータ公開) など、2ラウンドを終えて、ロギングサービスの課題など見えてきた。従来のJRでのロギングサービスとは異なり、「ちきゅう」中心とした調査船フリートを活かした新たなロギングデータの取得、データの品質管理、事前調査で得られたサイズミックデータ、コア試料、個々の物性値、CTスキャナデータ、カッティングス、泥水特性などとの統合的な解釈も試みられるようになってきた。本講演では、ロギングサービスの多様性と今後の課題に焦点を当てる。ロギングデータが地球科学界に広く認知され、利用されることを目標に宣伝活動をしていきたい。

キーワード: 孔内計測, ロギング, コアローグーサイズミックーインテグレーション, 地球深部探査船「ちきゅう」, 地球深部探査センター, 統合国際深海掘削計画

Keywords: Well logging, CDEX, D/V Chikyu, IODP, CLSI